ごとう通信

第87号
平成20年3月1日

三月の声を聞けばこっちのもの！もう冬のことなんて忘れて心はウキウキ春爛漫です。まずは花見の日程を決めて…。

さて、先日、ある歯科医師の会に呼ばれました。あまり同業者との付き合いがないので珍しいことなのですが、僕たちがやっている訪問歯科診療について話をして欲しいとのこと。介護、看護職の方を対象に話をすることは多いのですが、歯科医師となると少しやりにくい。それでも九十分の講演は無事に終わりました。それなりに評判も良く、質疑も終わろうとしたとき一つ質問が出ました。

「先生のように訪問診療をするためにはどのようなシステムを作ればよいですか？」。訪問する医師や看護師、ケアマネジャーたちとの連携をどう取っていくかという趣旨でした。僕は迷わず、「歯科医師としてしっかりとした実践と成果をケアの現場で見せること。そうすれば良好なネットワークができます」と答えました。しかし、相手は「まず実践するためにどのようなシステムを作ればよいのか」と反論。もちろん質疑は平行線で結論は出ませんでした。

何でも新しいことをするとき、自分の前に道はありません。しっかりと実践することで道ができてくるものです。でも「道がないから進めない」と言われてしまうと…いつ次の一歩を踏み出すのでしょうか。

このようなことは残念ながら日本の集団の特徴のようにも感じます。日本人には素晴らしい資質がたくさんあるんですからチャレンジ精神をもっと出せばいいんだと思うんです。それで結果が出なければ「再チャレンジ」（もはや懐かしい言葉）すればいいんですから。皆さんはどう思いますか？

金属とユニセフ

診療室に新しい感謝状がかかっているのにお気づきでしょうか。いかにも僕たちがもらったようですがそうではありません。診療の中で古い